

二人脚

中野
劇団

二人三脚

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

父

恵美 (めぐみ)

小学校の校庭。運動会。

場内放送 親子二人三脚に出場する選手の皆さんは、入場門に集合して下さい。

観覧席にござを敷いて、酒をかつくらっている父のもとへ体操服を着た娘の恵美が走ってくる。

恵美 あー！ お父さん、ちょっと何やってんのよ。

父 いやあ、今日は晴れて良かったなあ。恵美。

恵美 もう、二人三脚出てくれるって約束したじゃない。

父 したよ。

恵美 何飲んでるのよ。

父 ゆんける。

恵美 その（一升）瓶は何？

一升瓶にはマジックで『ゆんける』と書いてある。

父 ゆんける。

恵美 は？ うわ、（酒）臭。

父 え？ あ、ホント。ゆんけるくさ。

恵美 何飲んでるの？

父 いや、違う違う違う。

恵美 何、飲んでる、の！

父 お、ちゃけ？

恵美 もう、何で？

父 あのな、恵美。聞いて。ちよっと緊張してきちゃって、リラックスしようよと、ちよっと、ちよっとただだよ。ちよっとだけ。

恵美 半分減ってるじゃない。

父 最初から半分しかなかったんだよ。

恵美 嘘だね。

父 嘘。でも、ちゃんと約束は守るぞ。

恵美 そんなへべれけで走れるわけないよ。

父 へべれけって。何処で覚えたんだ。そんな言葉。

恵美 お母さんがいつも言ってる。

父 おまえ、父さんを見くびってもらっちゃ困るよ。ほら、ちゃんとこの通り普通に歩けるし。

父、座ったまま。

父 な。

恵美 全然駄目じゃない。お父さん、今、目も開いてないよ。

父 いやいや。開いてるし。

恵美 瞑ってるって。

父 え？ あ、うん。今は瞑ってた。フフ。

恵美 フフって。自分が立ってるのか座ってるのかもわかってないじゃない。

父 はい、ごめんなさい。

恵美 もう。

父 あの、明日はちゃんと走るから。

恵美 明日なんかやってないわよ。運動会は今日だけなの。

父 ばかな。

恵美 ばかはお父さんでしょ。飲んじゃ駄目だってあれだけしつこく言ったのに。

父 言ってたねえ。ホントしつこいなあとと思ってたんだけど。今わかったよ。おまえ

が何を畏れていたのか。この状況だな。

そうよ。呆れて物も言えない。

父 と物を言っている。

恵美

もう！

父

でも大丈夫。大丈夫。

恵美

勝たなきゃ駄目なの。

父

勝たなきゃな。そりゃそうだ。大丈夫。ほら、イチ、ニ、イチ、ニ、イチ、ニ、イチ、ニ。ほら、ほら。

座って、目を閉じたまま。

恵美

口で言ってるだけでしょ。

父

おまえさ、何でそんなに勝ちたいわけ？

恵美

それは？

父

負けたら何かあるのか？

恵美

一週間掃除当番代わりになることになってるの。

父

何だそんなことか。

恵美

そんなことって何よ。

父

父さんなんか先月まるまる掃除当番やらされたんだぞ。

恵美 会社で何やってるのよ。

父 わかったわかった。おまえのために何なら父さんは死ぬ気で走るぞ。

恵美 もういいよ。

父 何で？

恵美 そんな状態で走られても、恥ずかしいだけだし。

父 恵美。おまえは父さんの存在を恥ずかしいと、そうおっしゃりたいのですか。嗚呼、

父さんの育て方が間違ってたのかな。

恵美 多分育て方間違えたのはおばあちゃんの方だと思う。

父 でも負けても、おまえのせいじゃない。父さんがこんなだから悪いんだ。そうだ。

掃除当番の話はもういいから。

恵美 お父さんが決めることじゃないから。

父 じゃ、じゃあ父さんが掃除当番やるよ。な。

恵美 何が？

父 これは償いだ。会社あるけど、会社いいや。父さん、掃除上手いんだぞ。

恵美 だろうね。一週間毎日掃除だけに学校来られたら、それこそ恥ずかしいから。

父 はいはい。

恵美 はいはいって何よ。

父 …え？ おばあちゃんってどういう意味？

恵美 遅いよ。

父 あのな、父さん、凄いこと思いついた。

恵美 何？

父 二人三脚で絶対勝つ秘策。

恵美 もういいって。

父 いや、ホント。マジで。

恵美 みんなね、今日の本番のために家で練習してきてるの。ホントは私だって練習したかったのに、お父さん毎晩飲んで帰って来るの遅いから、練習は諦めてたのに。練習しないと勝てないんだから。

父 だからさ、練習しないでも、父さんのやり方なら絶対勝つから。

恵美 どんな？

父 もっと寄れ。聞かれたら真似されるだろ。特許取らないと。

恵美 だからどうするの？

父 鉢巻き二本使ってな、二人の足を結んでるように見せかけて、実は二人別々の鉢巻きで…。

恵美 それ、ずるじゃない。

父 ずるは駄目か。

恵美 当たり前でしょ。

父 おまえいい子だな。

恵美 何それ。

父 わかったわかった。ずるはしない。もうひとつの秘策。

恵美 秘策はいいって。

父 聞くだけ聞こうよ。

恵美 どうするの？

父 二人三脚ってさ、真ん中の足同士を縛るだろ。ふたりをひとりの人間だとすると三本足で走ってることになるだろ。これが不安定なんだ。奇数の足の動物なんていないだろ。

恵美 うん。

父 二人三脚とな、ひとりで走るの、どっちが早い？

恵美 そりゃ、ひとりの方が。

父 それだよ。

恵美 え？

父 つまりふたりで、ひとりの人間になるように足を出すんだ。真ん中の足を使わないで。おまえの左足と僕の右足だけで走るんだよ。な。

恵美 …先生に棄権するって言って来る。

恵美去る。

父 おい、わからないのか？ 何処に行くんだよ。おい！ あ、また目瞑ってた。

終わり。